

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 10	0	百日咳	↘ 0	2
RSウイルス感染症	↘ 79	97	ヘルパンギーナ	↘ 11	14
咽頭結膜熱	↗ 18	16	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↗ 27	23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 35	32	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 292	182	流行性角結膜炎(はやり目)	↘ 14	15
水痘	↘ 21	38	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	→ 12	12	無菌性髄膜炎	↘ 0	1
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 1	2	マイコプラズマ肺炎	↗ 5	2
突発性発しん	↘ 38	39	クラミジア肺炎	↘ 0	2

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- RSウイルス感染症
- 突発性発しん

- 感染性胃腸炎は、報告数 292 件(前週報告数 182 件)と増加。地区別では、有明、菊池、八代に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の 42 件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- RSウイルス感染症は、報告数 79 件(前週報告数 97 件)と減少。地区別では、宇城、菊池、熊本に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の 32 件を最多に 3歳以下からの報告です。
- 突発性発しんは、報告数 38 件(前週報告数 39 件)とほぼ同数。地区別では、菊池、八代、水保、天草に多く報告がみられます。年齢別では、6～11カ月の 20 件を最多に 2歳以下からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	27	9	20	76	8	5	9	3	5	13	1							
山鹿保健所	2			16			2			*	*							
菊池保健所	13	6		46	2	3	7			1	1							
阿蘇保健所										*	*							
御船保健所				4						*	*							
八代保健所	6			33	4	1	6											
水俣保健所	2		2	3	1		3			2	*	*						
人吉保健所	3			19	1		2	4	1	*	*							1
有明保健所	10	4	2	61	1		2											2
宇城保健所	19	1	2	19	3	2	1	1	8									
天草保健所	3			15	1	1	6	3	10									1
計	10	79	18	35	292	21	12	1	38	0	11	27	0	14	0	0	5	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	
インフルエンザ	10																					10
小児科定点年齢	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	79	12	20	32	12	3																
咽頭結膜熱	18		1	3	1	3	2	1	1	2	1				1							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35			1	5	4	2	6	6	2	3	4	1	1								
感染性胃腸炎	292	9	30	42	36	37	31	18	22	6	10	6	24	4	17							
水痘	21			7	6	3	3	1	1													
手足口病	12		4	3		1	1	2				1										
伝染性紅斑	1		1																			
突発性発しん	38	2	20	15	1																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	11		1	4	3	2					1											
流行性耳下腺炎	27			2	2	8	2	4	3	2	2		1		1							
眼科定点年齢区分	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	14								1					2	2	2	1	3	2	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	5		1	2		1	1															
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域
ありませんでした。

腸管出血性大腸菌感染症の発生が続いています!

今週は、7件の報告がありました。10月だけで既に11件です。第1週からの累積は67件になり、昨年1年間の報告数(58件)を超えています。腸管出血性大腸菌感染症は、一般的に夏場に多く報告される病気ですが、例年11月頃まで発生報告が続きますので、これからの季節も注意が必要です。

腸管出血性大腸菌は、強い感染力をもっており、食べ物に付いた少量の菌で感染します。また、タオルの共用などでも感染することがあります。しかし、潜伏期間が3～5日と長いこともあり原因がわからない場合が多くあります。また、この菌が産生するペロ毒素は、強い毒性があり、重症化した場合には、腎臓や脳などに障害が起きることもありますので、乳幼児や高齢者は特に注意が必要です。

腸管出血性大腸菌は、75℃で1分間加熱することで死滅します。生の食材と、加熱後の食品は必ず別の調理器具で扱うなどの注意をしましょう。また、動物とのふれあい体験で感染したと推定された例も報告されていますので、動物との接触後には十分な手洗いを行いましょう。